



1. 芦北の山で自分の家に使う木を選ぶ。切り出した経験は、一生の思い出に
2. 床や天井、壁も木造りの部屋は、窓からの眺める川の風景も癒しの要素
3. 玄関アプローチの敷石は、その土地から出てきた「馬門石」を有効活用
4. 金物を使わない伝統的構法で建てられた。この梁は自身で切り出したものの持つ美しさを活かした和風の佇まいは、周りの古い街並みにもよく似合う



Mさん邸  
熊本市

木が呼吸できるよう塗装をしない杉材が癒しを与える、木の持つ美しさを活かした和風の佇まい。木や石などの自然素材が、周りの古い街並みにもよく似合う



## そこにいるだけで、大らかに、健やかに。 毎日が森林浴気分の“呼吸する家”



県産木材を使うことは  
山や人の活力にも繋がる

家のことを色々勉強していくうちに、自然素材の良さに気付いたMさん。せっかく家を建てるなら、全て本物の木を使いたいところから、杉の無垢材を中心とした家づくりがスタート。

なぜ、杉かというと、杉は県内で一番長く使われている木材であり、地元で調達することができから。育った土地の木をその地で使うのが、もっとも理に合った使い方なのだ。実際、Mさんも娘さんと山に足を運び、林業家が丹精込めて育てた木々に触れた。また、県産木材で家を建てるのが新たな植林へと繋がり、山や人の活力となるという貴重な話も聞くことができた。「自分の家で使う木を選び、自らの手で伐採した経験は一生忘れません。家への愛着もひとしおですね」とMさん。さらに、Mさんは設計も棟梁も職人も、家づくりに携わったのは全て地元の顔なじみ。「地元の木と人で建てた家なので、これ以上に安心なことはありません」。

杉材の良さを最大限に引き出すため、丸太ごと買って無駄なく使っているのもMさん邸の特長。床、天井、壁はもちろん、見えない所にも杉板をふんだんに使っているので、断熱効果が高い。「無垢の床は足触りが柔らかく、じんわりと暖かいんです。お陰で、子ども達も一年中



縁側に続く開口部は、格子戸を入れて目隠しに

裸足で家の中を走り回っていますよ」と、奥様。木だけでなく、壁の漆喰や障子、畳といった自然の吸湿材との組み合わせも、快適な空間を造り出すポイント。「木の調湿作用で常に空気が澄んでいるからでしょうか。家干しの洗濯物もよく乾くし、以前と比べると家族が風邪をひかなくなったような気がします」。そう話す奥様の周りを、子ども達は真冬にもかかわらず、裸足で元気に遊び回っている。一方、夏は風通しが良くて涼しく、中でも南の川から吹く風が家を駆け抜けていくのがとても爽快だそう。熊本に育った木を使い、地元の職人たちに建てられた、理想の我が家。Mさんの希望通り、深い愛着を持って、末長く付き合える住まいを手に入れたようだ。





1. ロフト越しにリビングから子世帯の書斎へ採光。気配も伝わる
2. 高気密高断熱な施工で、真冬の廊下もLDKとの温度差がない
3. 木質感溢れる玄関周り。廊下も転んでもケガをしにくい無垢の床
4. ロフトから見た子世帯スペースの書斎。左右に居室がある



木の持つ調湿や抗菌作用で風邪と引きにくいのも大きな魅力だ

## 両親に快適な家は、きっと自分たちが 年を取っても暮らしやすい家だと思うんです



木の湿調で夏は涼しく冬は温か  
年中エアコンいらずの快適空間

「両親に快適な家は、きっと自分たちが年を取っても暮らしやすい家だと思っんです」と話すのは、三世代が暮らす木の家の子世帯のご主人で、施主のIさん。「だから我が家を建てる時き、目指したのは高齢者に優しい住まいであること。床には柔らかい無垢の木を使い、廊下や脱衣所にも温度差がでないよう、断熱材にもこだわっています。暮らしやすく交流もしやすい家にしたかったので、階段のない平屋建てに」と、温度や家族のバリアフリー化も図られた。小屋裏を見せることで吹き抜けのような天井高を実現しているリビングは、高窓からの採光で昼間は照明が要らないほど。その天井は、ご主人が「全面に木を使った古都鎌倉のカフェの雰囲気を取り入れたくて」とお願いした無垢板張り。ロフトの手摺りや腰壁とも相まって、自然が身近に感じられる空間だ。また、家中の床に使用した、表面に凹凸のある無垢材は、断熱の良家のつくりと木の蓄熱効果で、「真冬でも朝から足元がとて温かくて疲れにくい」とお母様もお気に入り。奥様も「子どもが小さいときについた傷もあるけど、無垢の木は日増しに味わい深くなっていくので不思議と気にならないですね。夏も木の調湿作用で足の裏がサ

ラツとしていて、気持ちいいんですよ」とみんなに嬉しいお住まいに。  
そのI邸を支えているのは、柱だけでも約100本は使われているという県産木材の躯体だ。以前からご主人は、家を建てるなら熊本の木で決めていた。というのも、職場でも戦後に植林された木が切り頃を迎え、需要がないまま放置されると山の保水力の低下や土砂災害に繋がると聞いていたIさん。「私たちが地元の木で家を建てることで、林業家は山の手入れができます。山を守ることは川下に住む私たちの暮らしを守るのと同じこと。さらに、その先に待つ海を、豊饒の海へと変え、地域全体に活力を与えることにも繋がっていく。家族はもうろん、熊本の人と自然も元気になるお住まいなのだ。



LDK と和室をL字型に配置。  
リビングの左側が子世帯



大人数でも回遊できて使いやすい、  
オープンキッチン



Iさん邸  
熊本市

近隣との調和を意識した、懐かしさが感じられる平屋の佇まい。楓やケヤキを使った格式ある和室には、量にも八代の畳表が使われている

